

輸送経済

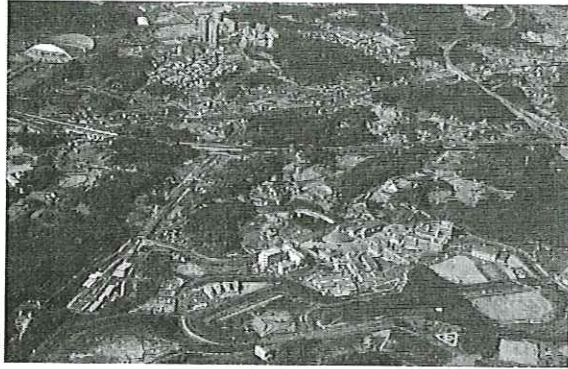
6/24

THE YUSO-KEIZAI

第2803号 昭和24年4月23日 (第三種郵便物認可)

平成20年
(2008)
(火曜日)
週刊

物流企業の拠点多く立地する「西風新都セントラルシティ」



百十三万人都市・広島（県福山市、小丸成洋社長）に一大物流拠点が誕生した。市の中心部から十五分の距離にある住宅・産業の集積地「西風新都セントラルシティ」。物流センターや配送施設向けに用意された一期分の用地は完売御礼となった。

進出企業の多くは、ワシントンフロアの面積が広いTSC（トランスファースター）を開発。そのほとんどが、在庫保管の機能よりも効率的な配送に適した構造となっている。

福山通運（本社・広島

産業団地が「完売御礼」

西風新都セントラルシティ

広島に一大「物流メツカ」

（サードパーティー・ロジスティクス）強化をけん引する拠点は、イオン向けの業務を受注しているほか、海外からの輸入貨物を国内配送に取り込むための営業も進んでいる。

同団地には、スーパーやコンビニエンスストアへの配送に対応した施設の立地が目立つ。名糖運輸（本社・東京、滝沢昭社長）やムロオ（同・広島県呉市、山下俊夫社長）が物流センターを開設しているほか、食品卸の菱食や加藤産業などが配送拠点を稼働させている。中国地区の拠点として、ヤマト運輸（同・東京、木川真社長）や佐川急便（同・京都市、栗和田栄一社長）などが同団地に施設を構える。進出企業のなかには、四国や九州、京阪神までを視野に入れた拠点として活用を計画しているところもあるという。